



JUNSEI

製 品 安 全 デ ー タ シ ー ト

1, 化学物質等及び会社情報

製品名 (特級) 2-フェノキシエタノール 2-Phenoxyethanol
整理番号 62415
作成日 2000 年 1 月 6 日
改訂日 2010 年 12 月 14 日

会社名 純正化学株式会社
本社住所 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 4-4-16
連絡先及び緊急連絡先 (MSDS 作成担当)
担当部門 営業本部 学術担当
担当住所 〒343-0844 埼玉県越谷市大間野町 1 - 6
電話番号 048-988-3621 FAX 番号 048-988-6689
E-mail: shiyaku-t@junsei.co.jp
http://www.junsei.co.jp

用途と使用上の注意: 本製品は試薬ですので、試験研究用以外には使用しないで下さい。

2, 危険有害性の要約

[GHS 分類] NITE 分類 (ID= 20A2186)

物理化学的危険性

引火性液体 : 区分外

自然発火性液体 : 区分外

健康に対する有害性

急性毒性 経口 : 区分外

経皮 : 区分外

皮膚腐食性 / 刺激性 : 区分外

眼に対する重篤な損傷性
/ 刺激性 : 区分 2B

皮膚感作性 : 区分外

生殖細胞変異原性 : 区分外

発がん性 : 区分外

生殖毒性 : 区分 2

特定標的臓器 / 全身毒性 (単回暴露) : 区分 3 (麻醉作用)

環境に対する有害性

水性環境急性有害性 : 区分外

水性環境慢性有害性 : 区分外

(注) 危険有害性の分類で、「分類対象外」及び「分類出来ない」は項目を省いた。

[GHS ラベル要素]

[GHS 絵表示]



【注意喚起語】

警告

【危険有害性情報】

眼刺激

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

眠気及びめまいのおそれ

【注意書】

【安全対策】

- ・取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
- ・適切な個人用保護具を使用すること。
- ・ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。
- ・屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

【応急措置】

- ・眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。
- ・ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。
- ・吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・吸入した場合、気分が悪い時は医師に連絡すること。

【保管】

- ・施錠して保管すること。
- ・容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。

【廃棄】

- ・中身及び容器の廃棄は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の処理業者に依頼する。

3, 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別: 単一製品

化学名: 2-フェノキシエタノール

別名: エチレングリコールモノフェニルエーテル

化学式: C₈H₁₀O₂

CAS No: 122-99-6

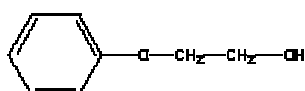
EINECS No:

含有量: 99%以上

化審法: 9-1277; 3-558

安衛法: 公表

構造式



4, 応急措置

吸入した場合:新鮮な空気と安静。必要な場合には人工呼吸。医師に連絡。

皮膚に付着した場合:汚染された衣服を脱がせ、水と石けんで皮膚を洗浄。医師に連絡。

眼に入った場合:先ず数分間、多量の水で洗い流す(できればコンタクトレンズをはずす)。医師に連れて行く。

飲み込んだ場合:意識あるなら、口をすすぐ。意識なければ、何も与えない。医師に連絡。

予想される急性症状及び遅発性症状

吸入:咳、咽頭痛、多幸感、頭痛、し眠、不明瞭言語。

皮膚:吸収される可能性あり。発赤、皮膚の乾燥、手と指の痺れ。他の症状については「吸入」参照。

眼:発赤、痛み。

最も重要な徴候及び症状

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

医師に対する特別な注意事項

5, 火災時の措置

消火剤

粉末消火薬剤、AFFF(水性膜泡消火薬剤)、泡消火薬剤、二酸化炭素。

使ってはならない消火剤

棒状放水、水噴霧

消火方法

周辺火災の場合、出切る限り速やかに容器を火災現場より遠ざける。移動不可能な場合は容器及び周囲に散水して冷却する。

着火した場合は風下の人を退避させ火元への燃料源を断ち、風上より消火剤を使用して消火する。消火に当たっては保護具を着用する。

特有の危険有害性:

特有の消火方法:データなし

消火を行う者の保護のために着用する保護具:防火保護服、手袋に加え、空気呼吸器等を着用する。

6, 漏出時の措置

人体に対する注意事項

暴露しないよう十分な換気のもと保護具着用して行う。

保護具及び緊急時措置

「8. 暴露防止及び保護措置」における、保護具着用

環境に対する注意事項

上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。

回収、中和

漏出物をふた付の容器に集め、残留物を砂または不活性吸収剤に吸収させて安全な場所に移す。

7, 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 蒸気、ミスト、ガスが、皮膚に触れたり、吸入することがないように、

局所排気したり、保護具を着用する。

- 作業場を換気する。

- 作業中は飲食、喫煙をしない。

- 強酸化剤との接触に注意する。

保管

- 火気厳禁。
- 密栓して換気のよい冷暗所に保管する。
- 強酸化剤から離しておく。

8, 暴露防止及び保護措置

通気:換気装置を用いて、ミスト、ほこり、蒸気濃度を低く保つ。

管理濃度(労働安全衛生法):設定されていない。

許容濃度

日本産業衛生学会(2008 年度):設定されていない

ACGIH(2009 年):設定されていない

設備対策

局所排気装置

保護具

- 有機ガス用防毒マスク。送気マスク、空気呼吸器等。
- 不浸透性保護手袋。
- 安全ゴーグル。
- 不浸透性保護衣。

9, 物理的及び化学的性質

外観:無色透明液体

臭い:データなし

pH: データなし

融点:14

沸点:245.2

引火点: 127

爆発範囲の上限・下限:1.4-9.0 vol%

蒸気圧:データなし

蒸気密度:データなし

比重:1.102 g/cm³

溶解度:2.67g/100ml

n-オクタノール/水分配係数:データなし

自然発火温度:500

分解温度:データなし

10, 安定性及び反応性

反応性と安定性:常温常圧で安定

避けるべき条件(静電放電、衝撃、振動など):データなし

混触不可物質:強い酸化剤

危険な分解生成物:

危険な重合反応:しない

11, 有害性情報

急性毒性 経口

ラット: LD50=2937mg/kg(雄)、4013mg/kg(雌) (GLP 準拠) (SIDs (Access on November. 2008)) により JIS 分類基準の区分外(国連分類基準の区分5)とした。

急性毒性 経皮

ウサギ: LD50=2257mg/kg-5548mg/kg の範囲の結果が 6 件あり (SIDs (Access on November. 2008)) 何れも区分外である。

急性毒性 吸入: ガス

データなし

急性毒性 吸入: 蒸気

データなし

急性毒性 吸入: 粉塵ミスト

データなし

皮膚腐食性 / 刺激性

Technical grade を使用した、ウサギを用いた皮膚刺激性試験 (OECD TG 404) において、「not irritating」の結果があり (SIDs (Access on November. 2008))、またヒトの影響として 2736 人にパッチテストを行った結果、刺激性はなかったとの報告がある。その他にヒトで刺激性試験を行った結果「刺激性なし」との報告が複数ある (SIDs (Access on November. 2008)) ため区分外とした。

眼に対する重篤な損傷性 / 刺激性

ウサギを用いた眼刺激性試験において、Draize scores が角膜 0、虹彩 5、角膜 8-14 との報告があり (SIDs (Access on November. 2008))、EU 分類では R36 (EU

呼吸器感作性

データなし

皮膚感作性

モルモットを用いた maximization test において「not sensitizing」の結果が 2 件あり (SIDs (Access on November. 2008))、ヒトへの影響として 501 人の患者でパッチテストを行った結果、「not sensitizing」の報告がある (SIDs (Access on November. 2008))。また 2736、3726、25 人の患者での 3 試験のパッチテストの結果において「not sensitizing」の報告が複数ある (SIDs (Access on November. 2008)) ため区分外とした。

生殖細胞変異原性

ラットの骨髄を用いた染色体異常試験 (体細胞 in vivo 変異原性試験)、及びマウスの強制経口投与による赤血球を用いた小核試験 (体細胞 in vivo 変異原性試験) において陰性であるため区分外とした (SIDs (Access on November. 2008))。なお in vitro 変異原性試験では、Ames 試験、CHO 細胞を用いた染色体異常試験で陰性である (NTP DB (1989)、SIDs (Access on November. 2008))。

発がん性

ラット及びマウスを用いた飲水による 104 週間の発がん性試験において、両種及び雌雄で、投与群に腫瘍あるいは腫瘍に関連した所見の発生増加は認められなかったとの報告がある (厚生労働省委託がん原性試験結果)。また FDA cancer models では、発がん性に関する試験結果はないが、ラット及びマウスで雌雄とも陰性であると推測している (SIDs (Access on November. 2008))。以上により区分外とした。

生殖毒性

マウスの経口投与による 2 世代繁殖試験の結果、親に一般毒性が示された用量で、新生児体重の低値及び新生児死亡率の上昇が認められた (NTP DB (1989, 1984)) との記述があるため区分 2 とした。なお、ウサギを用いた器官形成期に経皮ばく露した試験の結果、親に毒性症状が示された用量で、仔に対する影響はなかったとの記述がある (SIDs

(Access on November. 2008))。

特定標的臓器 / 全身毒性 (単回暴露)

ラット及びマウスを用いた経口投与試験において、一時的な昏睡、不活発、運動失調が認められたとの記述があり (SIDs (Access on November. 2008))、当該物質は麻酔薬に使用されているため (HSDB (2003)) 区分 3 (麻酔作用) とした。

特定標的臓器 / 全身毒性 (反復暴露)

ラットを用いた 13 週間の反復経口投与試験において、NOAEL=80mg/kg/day、LOAEL=400mg/kg/day であり、ガイダンスの区分 2 を超える 400mg/kg/day 以上の用量で腎臓の炎症が認められ (SIDs (Access on November. 2008)) ているが、NOAEL がガイダンスの区分 2 の範囲内であり、ガイダンスの区分 2 の上限での毒性影響は明確ではない。また、ウサギを用いた 90 日間の反復経皮ばく露試験において、500mg/kg/day で皮膚の局所に軽い紅斑が認められたが、臨床化学的検査、血液及び病理組織学検査においての所見はなく、NOAEL=500mg/kg/day としている (SIDs (Access on November. 2008))。以上により区分外 (経皮) に該当するが、他経路での影響が明確でないことからデータ不足で分類できないとした。

吸引性呼吸器有害性

データなし

12, 環境影響情報

- 生態毒性

水性環境急性有害性

魚類 (ファットヘッドミノー) の 96 時間 LC50 = 344 mg/L、甲殻類 (オオミジンコ) の 48 時間 EC50 > 500 mg/L、藻類 (セネデスムス) の 72 時間 EbC50 > 500 mg/L (いずれも SIDS, 2006) から、区分外とした。

水性環境慢性有害性

難水溶性でなく (水溶解度=28.9g/L (SIDS, 2006))、急性毒性が区分外であることから、区分外とした。

13, 廃棄上の注意

中身及び容器の廃棄は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の処理業者に依頼する。

14, 輸送上の注意

運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実にこなう。

国連番号: 非該当

品名:

国連分類:

容器等級:

海洋汚染物質: 非該当

緊急時応急措置指針番号: 非該当

15, 適用法令

消防法: 危険物第 4 類第 3 石油類非水溶性液体

毒劇法:非該当

P R T R法:非該当

労働安全衛生法:安衛法通知有害物(施行令、別表第九の番号):非該当

16, その他の情報

参考文献

- メルクインデックス14版 7257
- STNインターナショナル RTECS ファイル AQUIRE ファイル
- 危険物船舶運送及び貯蔵規則(十四訂版)国土交通省海事局検査測度課(海文堂)
- 改訂第3版 緊急時応急措置指針(日本規格協会)
- 15710 の化学商品(化学工業日報社)
- NITE GHS 分類データ (ID= 20A2186)
- NITE GHS 分類マニュアル(H18.2.10 版)
- 製品安全データシートの作成指針(改訂第2版)((社)日本化学工業協会)
- 化学物質総合情報提供システム(CHRIP)(NITE) <http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html>

コメント

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。また、記載物性値は文献値であり、規格値ではありません。

全ての化学製品には未知の有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いいたします。また、特別な取扱いをする場合には、新たに用途、用法に適した安全対策を実施の上でご使用下さい。